



佐渡山 明 議員

空き家の活用について

質 令和元年度の施政方針の中で「若者世帯へ空き家を貸し出す仕組みづくりの構築に向け、先進地での空き家活用等を参考に、先進地での取組を推進してまいります。」と村長は述べていました。令和3年時点で、村内の空き家は117軒でしたが、活用事例を教えてください。

答 企画課長（喜久山 隆）

役場が関わって活用に至ったケースはありません。空き家に助成をして活用しているという仕組みは確立されていません。

施設型共同墓（納骨堂）の整備について

質 年度予算に納骨堂の設計費が計

上されました。完成はいつ頃を目指しているのか。

答 村民課長（山城 達也）

今年度、事業を実施するに当たり納骨堂の数や参拝室の規模や場所について意見が複数あり、再度見直し拡充等を検討している。設計を委託することがないということではなく、以前の説明では斎場の隣に建設する構想でしたが、下の第二駐車場その両方で今検討している。

質 位牌と遺影なども納めることができますか。

答 村民課長（山城 達也）

定住促進に寄与する空き家対策として位牌等を預かることは有効な手段であります。

沖縄子供の貧困緊急対策事業について

質 県の調査によると、子供の3人に1人が貧困状態であり、その中でも母子家庭では50%以上の子供たちが貧困にあるという深刻な調査結果が明らかになったことから、内閣府では平成28年度から、沖縄子供の貧困緊急対策事業を実施し、令和3年までの6年間を集中対策期間と位

置付けて施策展開を図っていくことを決めましたが、本島内で居場所がないのは、今帰仁村、本部町、嘉手納町、そして恩納村。子供食堂を含めるとこの両方がないのは、恩納村だけです。必要ないのでしょうか。

答 福祉課長（石川 司）

児童生徒を対象にする居場所については、地域からの声や保護者からのニーズを調節して進めていければと考えています。

質 村内の要保護、準要保護の児童生徒数を教えてください。

答 学校教育課長（仲村 泰弘）

令和元年度が小中合わせて200名。2年度が228名。3年度が266名。4年度が255名。令和元年度から増加傾向にあります。

質 子供の貧困問題、考えを伺う。

答 教育長（宜志富 清博）

貧困問題に対して、教育会では教育に僻地をつくってはいけない、差をつくってはいけない。教育には貧困もつくってはいけない、これは私の理念です。学校現場ではやはり貧困は多いというのは確かに感じていました。居場所づくりに関しては実態を具体的に、支援が必要なのは支援していかないとはいけません。進めていきたいと考えています。

質 子供の居場所、具体的に説明します。一般的に対象者は児童扶養手当受給者。要・準要保護世帯、そのほか村長が必要と認める方で、高校生までを対象として設置されています。子供たちが安心して過ごせる居場所を運営し、生活指導、食事支援、学習支援を行い、自己肯定感を高め、人や社会と関わる力、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育てていけるような支援を実施し、子供が生まれた環境に左右されることなく未来に希望が持てるような関わりを持ち、支援世帯が抱える問題などの改善、各種支援員にて自立を促し、貧困の連鎖を断ち切ることを目的とした事業です。居場所の支援事業、考えを伺う。

答 村長（長浜 善巳）

子供の最善の利益を第一に考え、子供が等しく健やかに成長することができる社会の実現を目指し、子供政策の充実を最重要課題と位置付けて、ニーズに合った取組を推進してまいります。また学校、家庭、地域の連携が必要不可欠であり、密に情報共有を図ります。

提 執行部並びに議員の皆様、恩納村の未来を託す子供たちのため、早急に設置の有無を含めて我々には判断する責任があります。

村附属機関設置について

質 三月議会で附属機関設置、指定管理者評価委員会は否決で村長部局としては設置機関は指定管理全体を対象とした取り組みで早急にプロジェクトチームの立ち上げは。

答 総務課長（宮平 寛）

指定管理者評価委員会設置は、指定管理施設全体に適用できる評価委員会の設置を目的として、総務課、関係課係長を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、本村に合った評価委員会の設置要綱を整備していきたい。

質 これまでいろんな事業があって設置機関まで結びついた案件、（株）まえだに就いての村の考えを伝えたい方がいると思うが。

答 商工観光課長（親泊 誠）

議会だよりの中で、経緯等が掲載されていたと記憶しています。特に担当課から出向いての説明は現在は考えていません。

質 村長も何回か答弁で（株）まえだに指導助言等という答えもありました、現在の考えは。

答 村長（長浜 善巳）

引き続き私たちがこの会社に対しては助言してまいりたいと思っております。

自然環境の保全創出について

質 瀬良垣区の下水道整備工事に伴う海岸線の防風林の植栽は。

答 上下水道課長（新城 綱規）

瀬良垣区民の皆様は下水道整備工事にご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。ご質問の用地の跡利用については管路の管理用地としての利用を考えています。また植栽計画については瀬良垣区と調整していきます。

提 維持管理というところで評議員会で区域をいかした植栽も検討できないか話し合いをしているところ、協議を進めていければと思います。指導ご協力をお願いします。



大城 堅三 議員

沖縄科学技術大学院大学について

質 地域再生計画の進捗は。

答 企画課長（喜久山 隆）

地域再生計画に基づいた計画で企業版ふるさと納税受け入れ事業で、海洋環境モニタリング、保全事業の一つに軽石漂着問題に対する科学的知見の提供があり、軽石漂流パターンの解析と地球観測衛星画像の解析、サンゴ礁内に残る軽石の観測を行い、一般向けやうんな中学校での講演を行っています。

質 新聞報道があったスーパーシティ、スマートシティの状況は。

答 企画課長（喜久山 隆）

現在は本構想に関する手続等は進めていません。当初の課題解決や規制緩和と新たな取組をOISTと協議していましたが構想の前提条件のAI、ビッグデータの先端技術の活用の中で個人情報取り扱いに課題がありエントリーを取り下げた。

質 国・県と協議でのスタートアップ創出でインキュベータ施設整備の予算措置される部分で本村が立案想定しているものは。

答 企画課長（喜久山 隆）

沖縄振興予算でインキュベータ施設

が建設予定され、併せて経済産業省の補助事業で同じ規模の施設建設も予定されており研究機関や企業、地域の方が交流できるエリアが設けられ、これによりスタートアップ創出や産学連携の強化促進に期待されています。

質 村民に実感しない部分はまだあります。特に谷茶区と協議会等をやっている周辺整備等も企画が意見をOISTにぶつけていただければと思いますが。

答 企画課長（喜久山 隆）

新学長が就任し、以前からの構想があるインベーションパークについても、OISTがどのように関わって行くのかというところを図り、村も連携していきたいと考えています。

質 協議会、要請行動で、OISTと一緒に連携事業、インベーションパーク構想の村長の思いは。

答 村長（長浜 善巳）

インキュベーション施設が今後第一、三棟と大きくなって行きます。村において産業クラスターが広がっていくことが予想され、スタートアップ企業を国内外から呼び込もうとOISTも取り組んでいる、企業誘致を推進、強化したい。